

マレーシアにおける美術教育調査報告 (1998)

福田 隆眞・佐々木 幸*

The Research of Art Education in Malaysia (1998)

Takamasa FUKUDA and Tsukasa SASAKI*

(Received October 16, 1998)

キーワード：マレーシア、美術教育、カリキュラム、教員養成、教育実践

目次

はじめに

- 1 教育制度の概要
- 2 専門教育としての美術 —マラ工科大学、英特学院、赤道芸術専科学院の例—
- 3 教員養成における美術教育 —特別教員養成学院の例—
- 4 初等教育における教育実践 —セント・ガブリエル小学校の例—
- 5 中等教育における教育実践 —シャー・アラム第9中等学校、チュラス中等学校の例—

はじめに

本稿はマレーシア、シンガポール共和国の美術教育の調査の一部として、マレーシアにおける美術教育の現地調査を行ったものの一つである。(注1) 筆者はすでにシンガポール共和国、インドネシア共和国の美術教育のカリキュラムについて調査を継続して行っているが、(注2) マレーシアの美術教育の実践とカリキュラムの調査研究を実施することにより、東南アジアにおける経済的発展と教育における役割のうち、美術教育に関連する教育内容と今後のカリキュラム立案の基礎資料の一助となることを考えている。経済的発展から見ると、シンガポールが先進国に最も近く、インドネシアが発展途上の緒についたばかりで、マレーシアは2020年を目標に先進国を目指している。いわばマレーシアは発展途上の最中にあるといえる。

これまでの調査において、経済成長が進むに従って美術教育における伝統的教材の減少と情報教育の増大ということが考えられた。こうした視点とともに、本報告では美術教育のカリキュラム調査の一部として、高等教育、中等教育、初等教育を専門教育と普通教育、さらに教員養成の教育課程の概要と教育実践を実際に調査した事例をもとに報告する。そして、稿を改めてカリキュラムについての報告を予定している。

*北海道教育大学釧路校

1 教育制度の概要

マレーシアの教育制度は図1に見られるように初等、中等、高等教育に分かれ、中等教育が中学校、高校、予科に細分化されており、大学まで進学すれば我が国よりも修学年数は長くなる。中等教育までは授業料無償であるが、義務教育としては定められていない。従って非就学児童の保護者に対する罰則規定はない。以下にそれぞれの概要を資料をもとに述べる。(注3)

(1) 初等教育

初等教育は小学校で実施され、修業年数6年であり、就学年齢も我国同様6歳からである。学校数6932校、児童数276万人、就学率97%である。小学校では1983年からKBSR (Kurikulum Baru Sekolah Rendah) というカリキュラムで教育が実施されている。教育内容の領域は「コミュニケーション」(教科は言語教育と数学)、「人間と環境」(教科はイスラム教または道徳、人文と環境)、「自己発達」(教科は音楽、美術、体育)でなされ、3つの領域と各教科の配置に正合性を有している。

教科の学習は初等学校前期(45時限/週、30分/時限)で、マレー語、英語、数学、イスラム教または道徳、音楽、美術、保健体育があり、付随科目として中国語またはタミール語がある。初等学校後期(48時限/週、30分/時限)では、マレー語、英語、数学、イスラム教または道徳、社会、生活技術、音楽、美術、保健体育があり、付随科目では中国語またはタミール語がある。

(2) 中等教育

中等教育は3段階に分かれ、下級中等学校(Lower Secondary School)、上級中等学校(Upper Secondary School)および大学予科(Post Secondary)と専門学校の緒学校で行われている。一般的には下級中等学校と上級中等学校は一つにまとめられて5年制をとっている。学校数1437校、学生数は約17万人である。カリキュラムはKBSM (Kurikulum Baru Sekolah Menengah) を1985年から導入し、それに基づいて教育内容が実施されている。

下級中等学校(39時限/週、40分/時限)は日本の中学校に相当し、修学年数は3年間であり、総合制を採っている。生徒数約107万人である。ここでは、マレー語、英語、数学、イスラム教または道徳、理科、歴史、地理、生活技術、保健体育、美術があり、付随科目として中国語、タミール語、アラビア語がある。

上級中等学校(40分/時限)は日本の高等学校2年までに相当し、修学年数は2年で、普通学校(必修29時限/週、選択12時限/週程度)、技術学校(必修29時限/週、選択12時限/週程度)、職業学校(必修24時限/週、選択21時限/週程度)に分かれている。普通学校1280校、技術学校9校、職業学校69校などである。

普通学校では必修科目としてマレー語、英語、イスラム教または道徳、数学、理科、歴史、保健体育があり、選択科目には人文社会、科学、技術、イスラム学の内1つを選択することになっている。付随科目として中国語、タミール語、アラビア語がある。

技術学校では必修科目に、マレー語、英語、イスラム教または道徳、数学、理科、歴史、保健体育があり、選択科目には、会計、経済、商業、農業、家庭、応用数学、土木、電気

技術、設計のなかから1つを選択する。付随科目は中国語、タミール語、アラビア語がある。

職業学校では必修科目は、マレー語、英語、イスラム教または道徳、数学、理科があり、選択科目は技術系で電気、電子、機械、金属、自動車、建設、空調がある。家庭系では食物、服飾、美容・育児、菓子があり、商業系では経営、事務所管理、農業系では園芸、農業機械、農業経営が開設されている。

(3) 高等教育

高等教育は大学、大学院からなっていて、国立大学は以下の8つがある。マラヤ大学、マレーシア工科大学、マレーシア国民大学、マレーシア・プトラ大学、マレーシア北部大学、マレーシア科学大学、マレーシア・サラワク大学、マレーシア・サバ大学、国際イスラム大学。また、1996年の私立高等教育機関法により、現在までに4つの大学の設置が認可されている。テレコム大学、テナガ大学、ペトロナス大学、マレーシア科学技術大学。

以上がマレーシアの教育制度の概要であるが、本稿で調査にあたったマラ工科大学、特別教員養成学院は中等学校を修了した学生が進学するポリテクニクに位置づけられている。

こうした制度からすると、初等、中等教育での美術教育は小学校と下級中等学校の段階で実施されている必修科目であるが、その後の普通教育では行われていない状況にある。

2 専門教育としての美術教育

—マラ工科大学、英特学院、赤道芸術専科学院の例—

専門教育における美術教育の内容をポリテクニクレベルと専門学校レベルにおいて調査した。マラ工科大学は総合大学とも見なされる規模の大きい高等教育機関であり(注4)、英特学院(注5)、赤道芸術学専科学院(注6)は美術コースを有する専門学校である。以下に調査内容を述べる。(注7)

(1) マラ工科大学

マラ工科大学 (Institut Teknologi Mara) 芸術学部はクアラルンプールから40kmばかり郊外のシャー・アラム (Shah Alam) という都市にあり、10学部からなる総合大学である。この大学のキャンパスはマレーシア全土にあり、スンビラン州を除くすべての州にある。シャー・アラムの芸術学部には現在約2000人の学生が在学している。芸術学部は30年の歴史をもち、現在、以下のような12のコースからなっている。グラフィックデザイン(4年制)、テキスタイルデザイン(4年制)、金細工デザイン(4年制)、工業デザイン(4年制)、陶芸デザイン(4年制)、ファッションデザイン(4年制)、純粋美術(4年制)、音楽(4年制)、印刷技術(4年制)、写真(3年制)、美術教育(1年制)、美術教育修士(1年半~3年制、最大2年半~5年制年)

マラ工科大学芸術学部での取材では、学部長のアブドゥル・シュコール・ハッシム氏 (Prof. Dr. Abdul Shukor Hashim) から全体の説明を学部案内のビデオに従って受けた。また詳細については、陶芸担当の上級講師カマルディン・カムサー氏 (Kamaruddin Kamsah) から大学の施設の案内とともに説明を受けた。他に美術史担当の上級講師ムリ

ヤデイ・マハムード (Awang Damit Ahamad) からも説明を受けた。(注8)

学部の玄関には学生作品を展示するスペースがあり、他に正式な展示会場も設けて学内での作品発表の機会を有している。玄関ホールでは近年の作品が展示してあり、(図2、3、4、5、6) 現代的な傾向の美術作品と伝統的技法による工芸作品、オブジェ作品などがあり、学生の制作に対する幅の広さ、活気や意欲を表している。

ファッションデザインのコースでは、主として服飾のデザインと制作が行われており、1, 2学年で基礎的な技法を習得するための課題が設定され、3, 4年では学生のテーマに従って制作する方法がとられている。学生のテーマは、現代的な流行に沿ったものから伝統的な服装からのヒントによるものまで幅広くとりあげられ、実際に着用できる作品の制作を行っている。(図7、8)

陶芸コースではろくろ成形、型づくりの技法が主となり、作品の制作としては伝統的な陶芸作品とオブジェの両方が行われている。(図9、10、11、12) 1, 2学年では基礎的な陶芸技法、制作技術の習得が行われ、3年次以降ではテーマ別に学生が分かれて制作している。担当教官のカマルディンが愛知県の常滑に留学していたこともあり、名古屋芸術大学との交流が行われているとのことで、日本人の陶芸家が訪れて、作品発表の機会も有している。焼成のための窯も外部に設置され設備としては整っている。(図13)

工業デザインコースではモデル作成の技術、レンダリング技法手作業の技術、プレゼンテーション、テクニカルドローイング、デザインメソッド、コンピュータによるデザインなどが学習の中心となっている。外部からの制作委託による作品制作も行われており、学生がプロジェクトになってデザインから実物制作までを行っている。(図14)

印刷技術コースでは主にシルクスクリーン印刷を使用して、大がかりな制作が行われている。(図15) 外部の委託制作も行われている。大学での学習、研究が直接的に社会で役立つ教育内容となっている。

テキスタイル・デザインコースでは織と染の両方が行われており、バティックを初めとする伝統的な内容が中心となっているが、図柄等においては現代的な内容を取り入れている。

美術コースの絵画では分析的、段階的に表現技法の習得が行われており、1年生から4年生までの段階を分けて、明暗、構図、水彩絵の具の技法、油絵の具の技法、対象の処理、画面の緊張感等の絵画表現における基礎的内容の習得に重点がおかれている。(注9) (図16、17、18、19、20)

このように学部の段階ではそれぞれの表現領域を主とする制作と理論が行われている。また、美術教育については学部を修了して1年制のコースに入ることで教員の資格を得ることができる。修士課程については、昨年までツインシステムによってイギリスの大学と提携していたが今年から学内で修士課程が設置されることになった。

本調査では日程の都合上、すべてのコースの実態を調査できなかったが、カリキュラム等の報告は稿を改めて行う。

(2) 英特学院 (注10)

英特学院 (KOLEJ INTEC) はペナンにある専門学校である。1991年に創立した私立学院で、アート・アンド・デザイン (Art and Design)、コンピュータ (Computer Studies)、病院管理 (Hospitality Management)、電子エンジニアリング (Electronic)、会計

(Accountancy Course)、銀行 (Banking Course)、英語 (English Language) の9つのコースがある。

校長の Dato' Khor Gark Kim (拿督許岳金) 教授によると、マレーシアにある約500の私立カレッジのうち、美術で認可を受けている学校は多くはないという。現在、同アート・アンド・デザインコースではイギリスのDMU (De Montfort University) とのツイニング・コースがある。ツイニング・コースは海外の大学との提携により、学士の資格取得を可能にしたものである。このコースは基礎段階からディプロマまで、グラフィックデザイン、インテリア・建築デザイン、美術などの内容をフル・タイムあるいはパート・タイムにおいて学ぶ。

アート・アンド・デザインの学位を取得したい学生は、ツイニング・プログラムを選択することもできる。DMUで学位を取得するまえに、INITECで3年間学ばなければならない。あるいは、ここでの学習から他大学への互換単位を集めることもできる。この場合の他大学とはイギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカのアート・カレッジなどである。

DMU Diploma in Interior Architecture Designコースの内容は主として以下のよう構成されている。

(1) 1年 基礎 (1・2セメスター)

色彩、工作、版画 (プリント) 制作、デザイン、製図者心得、コンピュータ、美術史、立体デザイン、写真、美術用語、陶芸

(2) 2年 レベル (3・4セメスター)

技術学習、コンテクスチュアル・スタディ、Basic Model & Visual、写真、インテリア建築の導入、空間デザイン実験、コンピュータ (オートCAD)

(3) 3年 レベル (5・6セメスター)

コンテクスチュアル・スタディ、技術学習、インテリア建築の最終プロジェクト、Model & Visualの発展、特別環境デザイン、室内建築、コンピュータ (オートCAD)

また、DMU Diploma in Graphoc Designコースの内容は、主として以下のよう構成されている。

(1) 1年 基礎 (1・2セメスター)

色彩、工作、版画 (プリント) 制作、デザイン、製図者心得、コンピュータ、美術史、立体デザイン、写真、美術用語、陶芸

(2) 2年 レベル (3・4セメスター)

技術学習、視覚的印刷、コンピュータ、宣伝デザイン、コンテクスチュアル・スタディ、編集デザイン、情報デザイン、特別ドローイング、写真、タイポグラフィ、パッケージ、イラストレーション

(3) 3年 レベル (5・6セメスター)

編集デザイン、宣伝デザイン、コンピュータ、マルチメディアデザイン、技術学習、視覚的印刷、情報デザイン、コンテクスチュアル・スタディ、写真

これらのコースを修了したのものには、DMUへの編入によって学士取得が可能になる。また、就職に関しては、インテリアデザイン、建築家、展覧会、グラフィック、美術館・テレビデザインの特別コンサルタント、イラストレータ、デザイナー (デザイン会社、広告、印刷、パッケージ、展覧会等)、プロジェクトマネージャー、製造スタッフ、CGアー

ティストなどの職種への就業の機会があるという。(図21、22、23、24、25)

(3) 赤道芸術専科学院(注11)

赤道芸術専科学院(EQUATOR ACADEMY OF ART)は、ペナンにある芸術専門の私立学校である。1987年にChuan Kooi Yong(蔡貴榮)によって創設された。創設当時は7人の学生数であったというが、現在では500人を超えるフルタイムの学生が在籍している。Chuan Kooi Yongはシンガポールの美術学校(Nanyang Academy of Fine Arts)の出身者である。Nanyang Academy of Fine Artsは、1938年創立のシンガポールで最も歴史のある美術学校で、シンガポール及び周辺諸国の美術界のパイオニア的作家を輩出している。

赤道芸術専科学院には、グラフィック&マルチメディアデザイン、インテリア建築デザイン、建築技術、美術、ファッション&テキスタイルデザインの5つのコースがあり、それぞれフルタイム及びパートタイムの学生が学んでいる。3年間の在学によってディプロマまでの取得が可能であり、イギリスのDMUとのツイニング・システムによってDMUでの学士取得が可能になっている。また、単位互換が可能な国外の提携大学・教育機関としては、イギリスのUniversity of West England at Bristol、ニュージーランドのWanganui Polytechnicなどがある。交換留学の提携先としては、イギリスのBershire College of Art & Design、Middlesex University、Leeds Metropolitan University、オーストラリアのQueensland University of Technology、University of Tasmaniaなどがある。

各コースの内容は次のように構成されている。

(1) グラフィック&マルチメディアデザインコース

グラフィックデザイン、マルチメディア、ドローイング、写真、イラストレーション、視覚研究、美術・デザイン史、コンピュータ・グラフィック、立体デザインなどを扱う。

(2) インテリア建築デザインコース

インテリアデザイン、建築デザイン、家具デザイン、CAD、美術・デザイン史、製図、色彩学、建築構造、素材研究などを扱う。

(3) 建築技術コース

一般住居デザインと技術、コマーシャル建築デザインと技術、美術・デザイン史、CAD、製図、模型作成、建築構造、建築素材研究、設計管理などを扱う。

(4) 美術コース

美術史、東洋画、西洋画、視覚研究、立体研究、写真、コンピュータ研究

(5) ファッションデザインコース

ファッションデザイン、テキスタイルデザイン、プリント、コンピュータグラフィック、ドレスメイキング、パターンデザイン、視覚研究、色彩学、デザインマネージメントなどを扱う。

キャンパスは現在、ペナンに3カ所あるが、1999年の早期には新校舎が完成予定で全学生を収容できる。北マレーシア、スマトラ(インドネシア)、タイなどの学生を受け入れることも考えているという。このような美術学校は、北京、天津、上海、南京などの中国各地にもできはじめており、華人の人口が圧倒的に多いペナンでは学生の確保がこれからの経営上の問題になると言われている。

現在の校舎の施設・設備に関しては、十分に整っているとは言えないが、コンピュータや映像関連の施設に関する整備は重点的になされている。

赤道芸術専科学院も前述の英特学院も、コースの構成や内容に関してはほぼ同様であり、イギリスのDMUなどとのツイニング・システムによる学位取得の制度も共通している。専門教育としての美術・デザインの教育は、商業的・工業的側面が強調されており、昨今のコンピュータの急速な普及がこれに拍車をかけているかたちになっている。(図26、27、28、29、30)

3 教員養成における美術教育 —特別教員養成学院の例—

クアラルンプールにある特別教員養成学院 (Maktab Perguruan Ilum Khas) (注12) はマレーシア全土に31の教員養成学校のなかで最高に位置づけられている。現役学生の教員養成と現職教員の研修を目的とする教育機関で、1960年に開設された。現在、1486名の学生が在籍しており、212名の教官によって教員養成が行われている。また、教員の研修の実績でいえば、1987年からこの10年間で約6500人の研修生を受け入れて再教育に当たっている。

マレーシアにおいては、「教師」の社会的ステータスが年々向上しており、教員志望の学生も急増しているのが現状である。近年のデータによるとマレーシア全土の教員養成学校の総定員が5000人のところ、約60000人の受験希望者がいるとのことで、受験の倍率も高くなっている。教員の計画養成を行っているので、教員養成学校の卒業生は100%教員として就職が可能である。学生の総定員数は需要に合わせて増減を行っている。この大学での入学試験は筆記試験と面接によって行われ、受験生も女性が多く、現在教員の80%は女性である。教員の資格は3年制修了で小学校教員、4年制修了で中学校教員の資格が与えられている。

この大学の歴史、理念、カリキュラムについては紙面の都合上、稿を改めて報告することにし、本稿では今回の調査での美術教育の実態に触れることにする。(注13) 美術教育のコースは設立当初の1960年に金属工芸、木材工芸、の伝統的な工芸工作教育のコースの設置から始まり、現在では、絵画、彫刻、グラフィック、印刷、版画、インテリア装飾、金属工芸、陶芸、テキスタイル、染織、木材工芸、民芸、景観構成の分野からなるコースに発展してきている。

教育内容は全体の教育のうち4分の1が伝統的な内容であり、残りは現代的、西洋的な教材が扱われている。伝統的あるいは地域的教材は手工芸、手工作を中心とするもので、従前はこうした工芸・工作の教育によって技術習得をすることで、一般社会の軽工業への対応がなされていたが、工業化社会が発達するにつれて、工作・工芸教育では軽工業への対応ができなくなってきたのが現状である。また、現代的、西洋的な教材では造形要素や視覚言語の使用によって教育を行う部分もあるが、こうした考えは伝統的な教材には直接当てはまらない。むしろ伝統的な教材には歴史と哲学が背後に存在しているので、そのことを教育内容に含めて考えなくてはならない。伝統的、地域的教材を現実に実施するためには、材料の入手が困難になっているので、材料を代替して、現在、入手可能な素材によって行っているが、そうした教育の目的には技術習得の面よりも、伝統によって培われた哲学の習得の面を重視していると考えられる。

小、中学校の美術教育では現在のところ国家的規模での教科書は刊行されていないのが実状で、教材の実践は授業担当者である教師に任されているところが大きい。授業内容を実施、習得するためのいわゆる参考書は私的なレベルで出版されており、購入している児童・生徒も見られる。(注14)

この大学では授業期間の都合により、直接、美術教育の実践を見学することはできなかったが、教材の実施によって出来上がった学生の作品展示について説明を受けた。(図31、32、33、34、35、36)現代的、西洋的な教材が多くをしめているとはいえ、やはり出来上がった作品の傾向は伝統的、地域的な表現を基盤としていると見なされるものが多いような印象を受けた。造形要素や視覚言語の導入によって現代的な教育方法をとってはいるが、色や形に対する認識や好みは生活習慣や社会環境から生まれるところがあり、鮮やかな配色、伝統的工芸作品に類似した形の発想、あるいは現代の視覚メディアからくるアニメやキャラクターなどが造形表現の要素となっているように感じられた。

国としての経済発展が進むにつれて、生活様式が西洋の合理主義や機能主義に変わっていくなかで、伝統的な教材の位置づけは実生活での有用性ということが遊離していき、文化の継承という側面を強くしてくるようになると思われる。そのことはすでにシンガポールにおいても、我が国においても実証されていることであり、教員養成において、美術教育が技術習得から創造的表現に変わろうとしている実態を感じることができた。

4 初等教育における教育実践 —セント・ガブリエル小学校(注15)の例—

セント・ガブリエル初等学校は、クアラルンプールの中でも最も古い初等学校の一つである。総生徒数は571人である。他の学校と同じように2部制で、4・5・6学年が午前のクラス、1・2・3学年は午後のクラスとなっている。

ここでは、校長のPn. Hji. Rusaini bt. Itj. Abdullahをはじめとするスタッフとの面談による美術教育・表現教育の状況、また美術の授業参観を行うことができた。(注16)

校長及びスタッフのZulkapliによると、美術や表現の教育に関しては、いくつかのねらいをもとに教師団のディスカッションを通して進められていくという。作品の表現の意図を汲みとる、コンセプトから感じ取るもの、段階的なモチベーションをいかに維持させるか、といったことがディスカッションの内容になるという。初等学校のカリキュラムの重点領域は、国語(マレー語)、数学、科学ではあるが、美術教育は創造性を発揮したり創造的活動を体験する場として貴重であるという。表現に関わる教育を広くとらえるならば、俳句などのコンペに積極的に参加したり、コーポレートカリキュラムなどのような総合的なカリキュラムにおいていろいろな実践を行っている。

美術主任は、Syed Abdellah B. Syed Omarで、教員養成カレッジを7年前に卒業したという。Syedによると、美術の内容は、絵画(Drawing)、パターン(Pattern)、紙工作(Paper Craft)、伝統工芸(Traditional Craft)に分けられていて、これを1週ずつついで、1月のサイクルにするという。マレーシアでは美術の教科書は発行されていないので、こうしたサイクルをもとに各教師によるディスカッションを通して内容や指導方法が考えられている。

筆者の取材日には、Syedによる美術の授業をはじめいくつかの教室での美術授業を参観することができた。Syedのこの日の授業は、コモンウェルス・ゲーム98(1998年9月

にクアラルンプールを会場として行われる元イギリス連邦領の体育競技会)のロゴマークをコラージュで制作するというものであった。これは、前述の「パターン」もしくは「紙工作」に属するものと考えられ、ロゴマークを台紙に写しとってから、細かい紙片をモザイクのように貼り付けて完成させるものとなっている。授業の展開は、教師による課題の目的と制作の方法についての説明のあと、生徒の制作にうつるといって形になっており、制作指導に関しては、30～35人の生徒への個別指導が行われていた。

また、別の学級では、帯状の色紙を交互に編み込んでいく題材が行われていた。これは、マレーシアの伝統工芸であるアニヤマン(様々な色に染めた竹の編み込み細工)を紙で行ったものであり、「伝統工芸」に属する授業である。同様の題材は、日本の図画工作の教科書をはじめ様々な国の美術教育の内容に見受けられるが、ここでの題材は、自国の伝統工芸文化が背景となっている。(図37、38、39、40、41)

様々な題材は、教育省によるシラバスをもとに、教師たちが考え出したもの、あるいはこれまでの実践の中で引き継がれてきたものであるが、美術や工芸の一般書、技法書、教育用図書などを参考にしているという。

5 中等教育における教育実践

ーシャー・アラム第9中等学校、チュラス中等学校の例ー

(1) シャー・アラム第9中等学校 (Sek. Men. Ker. Seksyen 9 SHAR ALAM) (注17)

シャー・アラムは、クアラルンプールに隣接する都市であり、ここには前章で紹介したマラ工科大学がある。シャー・アラム第9中等学校は、マラ工科大学と連携しながら教育活動を進めている新設のパイロット・モデル校である。1998年現在では、今年度に入学した1年生と、他の学校からの編入による2年生という生徒の構成であった。現在24学級、生徒数は830人である。

新設校ということもあり、施設・設備の面については充実したものとなっている。一般教室棟とは別に、実習のための教室棟をもち、十分な広さや設備の中で学習できるようになっている。この実習棟の中には、日本の技術・家庭科の教室に相当する教室が集められている。木工や金工などの工作実習室群、被服実習室や調理実習室などのほか、家庭生活の学習のための教室もある。この教室は、キッチンセット、ダイニングセット、洗濯室などが配置され、一般家庭での実際の生活を再現したものとなっている。キッチンセットなどの設備は企業の寄贈によるものだが、恵まれた教育環境と言える。

この学校では実際の美術教育の授業を参観することはできなかったが、美術工芸の教育の成果を地域に公開するイベントを見ることができた。これは、地域との連携を促すという目的を持つ行事の一つであり、これを通して毎週、各教科の教育成果の公開を行っている。例えば、言語、料理、科学、ムルデカ(独立)などのテーマがあり、このテーマに即して「言語習慣」、「料理週間」、「科学週間」、「ムルデカ週間」という行事が行われる。これらのアイデアは、教師たちが発案し、企画しているという。

筆者の取材日(1998年7月27日)は、芸術をテーマにした「芸術週間」に当たっており、生徒たちが作った作品の展示の他、教師の作品、さらに地域との関わりとしてマラ工科大学の学生作品による合同展覧会が行われていた。生徒作品は、ペンスタンドやメモホルダーなどの木工作品、電子ブザーやセンサーなどを利用した電気工作、金工作品、手芸作品な

どである。マラ工科大学の学生作品は、プロダクト・デザインのレンダリング、自動車デザインのための模型、金工作品、グラフィック作品、色彩パネルなどが主体となっていた。

展示された作品の傾向としては、絵画や彫刻よりもデザイン・工芸の色彩が強かった。また、自己表現の側面よりは、技術習得としての作品の傾向が強く感じられた。(図42、43、44、45、46)

この学校は、施設・設備の面に限ってもかなり恵まれた環境にあり、しかもパイロット・モデル校でもあり、都市部のその他の学校と同じ条件にあるとは言い難いが、マレーシアにおける近代的な学校の理想像の一つとして想定することはできよう。新設のために、生徒が2学年までしか在籍しておらず、美術教育はもとより様々な教科においても試行期にあるといえるが、地域との連携を期待したイベントを教師の企画により積極的に行うなど、新たな学校教育の側面を開拓しようとする意欲的な試みが認められた。

(2) チュラス中学校 (Sekolah Menengah Kebangsaan Cheras) (注18)

この中等学校は、クアラルンプールの郊外にあり、前述のセント・ガブリエル初等学校にも近い。1964年に別の中等学校の敷地内に開校し、1969年より正式に開校しているということであるから、古い学校に属する。午前の部で40学級、午後の部で35学級、総生徒数2854人の規模をもつ。学校教員は、非常勤を含めて136人であり、このうち105人が女性である。ここでは、校長Puan Maimunah binti Yahyaをはじめとする学校スタッフとの面談のほか、美術の授業参観を行うことができた。

マレーシアの中等学校は、一般に1～3学年 (Form 1～3) による下級中等学校 (Lower Secondary School) と、4・5学年 (Form 4, 5) による上級中等学校 (Upper Secondary School) に分けられる。

教科に関しては、下級中等学校段階では、マレー語、英語、数学、科学、歴史、地理、イスラム教育、生活技術、美術工芸・音楽、道徳教育などがあり、美術工芸・音楽、道徳教育以外にはすべて試験がある。上級中等教育段階では、コア科目 (必修) として、マレー語、英語、数学、歴史、イスラム教または道徳教育、科学 (物理、化学、生物) がある。このほか、技術・職業科目として、商業、計算、技術製図、創造的発明、イスラム教または道徳教育が設定されており、またヒューマンティの科目として、美術工芸、マレー文学、地理、イスラム教または道徳教育が設定されている。生徒は必修のコア科目以外に、この技術・職業科目とヒューマンティの科目の中から1～3科目を選択する。

ところで、中等学校の修了に関しては、美術教育に関しても試験が設定されており、客観テストのほか実技テストや課題制作などによる試験もある。これらに関しては、民間の出版社から様々な参考書が市販されており、美術の教科書がないことから、生徒は民間の参考書を購入することもある。現実にはこの試験対策としての指導はほとんどできないという難しさがある。

ここでは、美術教師Ismail Ahmadによる授業のほか、いくつかの美術教育の実践を参観することができた。Ismail Ahmadは、Athirah Batikというバティックの工房の経営者でもある。ペナンの出身で、父親もバティック職人であり、彼もまたいくつかの工房で修行を積んできたという。

取材日の美術の授業は、バティックの制作が題材となっており、美術室でのバティックについての説明、方法や手順の説明をおこなったのちに、戸外でグループによるバティッ

クの実習が行われた。中空に布を張り、チャンティンとよばれる伝統的な道具を用いて、布面にロウで柄を描いていく。ロウの描線で囲まれた部分に、筆で彩色していくという手順である。パティックの制作上の細かな注意点や技法指導には、専門的な知識や技術が生かされており、内容的にも充実した題材であると言える。

他の教室では、紙を様々な色で染める題材、様々な色のストローの細工による工作などが行われていた。また、Ismailによると、こうした伝統的な工芸を背景とする題材の他に、ベーシックデザインの内容、ポスターなどのグラフィックデザインなども取り入れているという。さらに壁画の共同製作、休日に生徒を校外の博物館・美術館に案内して行う鑑賞の授業など、多様な美術教育を行っているという。(図47、48、49、50、51)

中等学校における美術教育の内容はシラバスにあるとはいえ、具体的な実践の展開には個々の教師の力量によるものと思われる。教科書がないという現状と、試験のために民間の参考書が市販されているという現状が、現時点の美術教育のおさまりの悪さを示しているといえよう。

付 記

本稿を作成するにあたり、福田が、はじめに、1、2の(1)、3を担当し、佐々木が2の(2)、(3)、4、5を担当した。全体を福田がまとめた。また、本稿の調査にあたり、以下の方々に協力をいただいた。感謝の意を表します。諏訪礼美(日本学術振興会特別研究員)、Maruzuki Bin Hashim(Pusat Bella Antarabangssa)、Haji Adenan Bin Haji Abdul Wahab(Pusat Bella Antarabangssa)、Baharum Bin Awang Mad Taha(Pusat Bella Antarabangssa)、西牧隆荘(ジャイカマレーシア所長)、郡昭治(ジャイカマレーシア)、Lim Choon Lan、Pho Swee Yong、Yoeh Cheak Kuang、Tew Yoke Kuan

注

- 1 本研究は平成10年度文部省科学研究費補助金国際学術研究(学術調査)「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究—マレーシア、シンガポール、インドネシアの事例—」(研究代表者 福田隆真、研究分担者 佐々木宰 小平征雄、課題番号10041075)に基づく調査の一部であり、1998年7月25日～8月12日に実施した報告の一つである。
- 2 本稿に関連する調査研究として、平成7、8年度文部省科学研究費補助金による国際学術研究(学術調査)として、シンガポール、インドネシアにおける美術・工芸教育の調査とカリキュラム研究を行った。(研究プロジェクトは1に同じ)
- 3 マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)「マレーシアハンドブック1998」1998 pp.33-46 および、Education Guide Malaysia, Fourth Edition, Challenger Concept, 1997 pp.2-17、Educational Planning and Research Division, Ministry of Education Malaysia, Education In Malaysia, 1989を参考にした。

- 4 マラ工科大学芸術学部 (Institut Teknologi MARA, Fakulti Seni Lukis & Seni Reka, Shah Alam, Selangor, 40450, Malaysia, Tel:603-5564456) これについては以下の文献を参考にした。Perkembangan dan Haluan Kurikulum Pendidikan Malaysia, Berita Pubulising Sdn.Bhd. 1996, pp241-242 および Sufean Hussin, Pendidikan Di Malaysia, Sejarah, Sistem dan Falsafah, Dewan Bahasa dan Pustaka, Kuala Lumpur,1996.p400
- 5 英特学院 (Kolej INTEC, Pusat Seni Pukau Pinang, 7, Leith Street, 10200, Pinang, Tel:04-2618088)
- 6 赤道芸術専科学院 (EQUATOR ACADEMY OF ART, 47 Anson Road, 10400 Penang, Malaysia, Tel:04-2265116)
- 7 マラ工科大学芸術学部は1998年7月27日、英特学院は8月3日、赤道芸術専科学院は8月4日に調査を行った。
- 8 学部長のアブドゥル・シュコール・ハッシムは絵画と美術教育を専門とし、オハイオ州立大学で美術教育の学位を取得している。陶芸を専門としているカマルディン・カムサーは愛知県常滑において陶芸の研修を行った。また、美術史のムリヤッド・マハムードはアメリカにおいて学位を取得している。このように、専門教育の指導者は現在まで、いずれかの形で海外での教育を経ている。
- 9 絵画の教育内容については、担当教官のAwan Damit Ahamadより説明を受けた。
- 10 資料として、以下を参考にした。
 - ・英特学院INTEC, 学校案内用パンフレット, A4, 総4頁, (中国語)
 - ・Course available in Kolej INTEC, コース案内プリント, B5, (英語)
 - ・Art and Design, コース案内プリント, B5表裏, (英語)
- 11 資料として、以下を参考にした。
Computer Graphic and Multimedia Design, 学校案内用パンフレット, A4三つ折り
- 12 Maktab Perguruan Ilum Khas, Jalan Tenteram, 56000 KUala Lumpur Tel: 03-9318160 本調査に当たっては、副学長のHJH.NOR AZIZAN BT.HJ.YUSUFFおよび社会学主任のBaba Ahamad Bin Omarの両名からの説明を受けた。1998年7月28日の調査による。
- 13 美術教育の内容に関しては、担当教官の一人であるMohamed Zaid Bin Abd. Samadより説明を受けた。
- 14 正式な美術の教科書はまだ刊行されていないが、児童・生徒の学習のための参考書として、以下のようなものが民間の出版社によって発行されている。
 - ・Kathleen Chee, Siri Pelangi FOKUS, PENDIDIKAN SENI(TEORI SENI 1) SPM, PenerbitanPelangi Sdn. Bhd. 1997
 - ・Kathleen Chee, Siri Pelangi FOKUS, PENDIDIKAN SENI(TEORI SENI 2) SPM, PenerbitanPelangi Sdn. Bhd. 1997
 - ・Kathleen Chee, PENDIDIKAN SENI PMR Unsur-Unsur Seni, Prinsip Rekaan dan StrukturRekaan, PenerbitanPelangi Sdn. Bhd. 1991
 - ・Kathleen Chee, PENDIDIKAN SENI PMR Seni dan Komunikasi, Penerbitan Pelangi Sdn. Bhd. 1992

- ・ Kathleen Chee, PENDIDIKAN SENI PMR Kraf Tradisional dan Kraf Semasa, Penerbitan Pelangi Sdn. Bhd.1992
- 15 Sekolah Rendah Kebangsaan ST Gabriel, Jalan Perwira 5100 Kuala Lumpur, Tel:03-9850712, 資料として、以下を参考にした。
 - ・ MAKLUMAT SEKOLAH KEBANGSAAN ST. GABRIEL , 私家製本, A4, 総14頁, (マレー語)
 - ・ PRIMA, SEK.REN.KEB.SAINT GABRIEL, JILID KE-2, 1997, 学校要覧, B5, 総131頁, 1997, (マレー語)
- 16 1998年7月30日の調査による。
- 17 1998年7月27日の調査によるもので、学校長のNoshamから説明を受けた。
- 18 Sekola Menengah Kebangsaan Cheras, Jalan Tenteram Bandar Tun Razak 56000 Kuala Lumpur, Tel:03-9318517,1998年7月30日の調査による。

参考文献

- ・ Institut Teknologi Mara, Fakulti Seni Lukis dan Seni Reka, 1998
- ・ Ministry of Education Malaysia, Curriculum Development Centre, 1998
- ・ Kementerian Pendidikan Malaysia, Buku Penerangan Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah,
- ・ Kementerian Pendidikan Malaysia, Buku Penerangan Kurikulum Bersepadu Sekolah Menengah, Pusat Perkembangan Kurikulum, 1992
- ・ Kementerian Pelajaran Malaysia, Sukatan Perjaran Sekolah Rendah Pendidikan Seni, 1983
- ・ Kementerian Pendidikan Malaysia, Sukatan Perjaran Sekolah Menengah Pendidikan Seni, 1988
- ・ Kementerian Pendidikan Malaysia, Kurikulum Baru Sekolah Rendah Buku Panduan Khas Pendidikan Seni Tahun Satu, Dewan Bahasa dan Pustaka, 1987
- ・ Education Guide Mlaysia, Fourth Edition, Challenger Concept, 1997

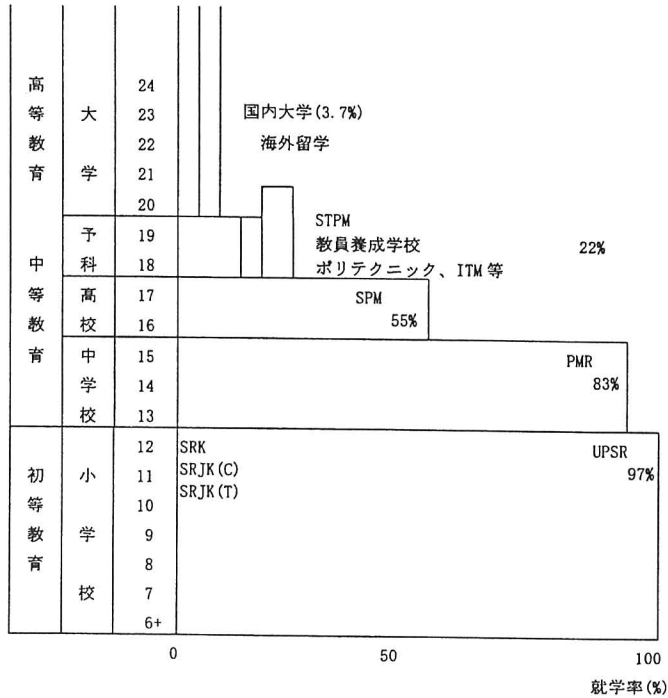


図1 マレーシアの学校教育制度及び就学率(1994年)
(出所 Education Static of Malaysia, 1994)



図2 マラ工科大学芸術学部の教官



図3 玄関ホールの作品展示



図4 玄関ホールの作品展示



図5 玄関ホールの作品展示

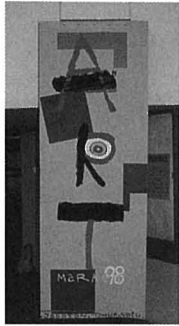


図6 玄関ホールでの案内表示



図7 ファッションデザインコース



図8 ファッションデザインコース
卒業制作

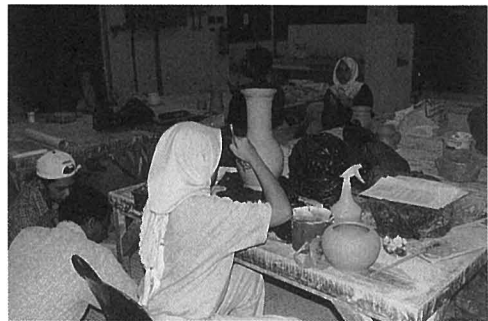


図9 陶芸コース、ロクロによる成形

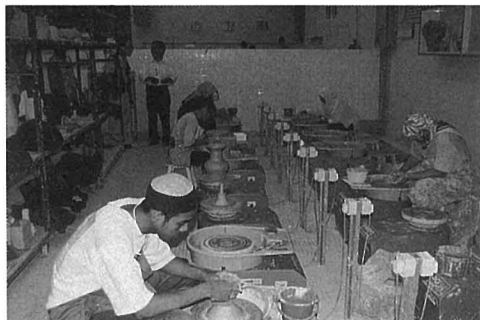


図10 陶芸コース、ロクロによる成形



図11 陶芸コース、型による成形



図12 陶芸コース、制作風景



図13 陶芸コース、窯

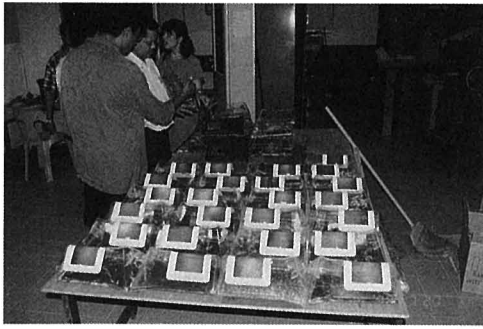


図14 工業デザインコース、委託制作

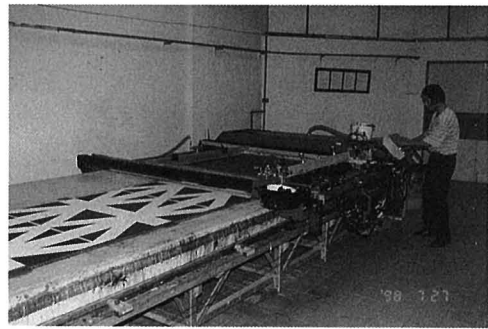


図15 印刷技術コース、委託制作

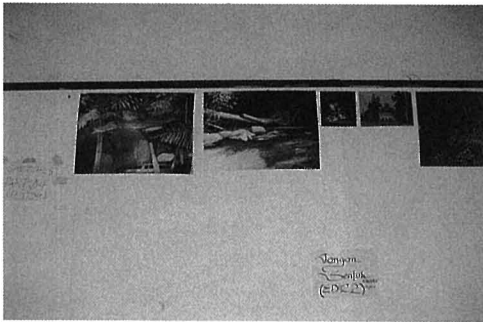


図16 絵画コース、白黒による描画



図17 絵画コース、水彩画

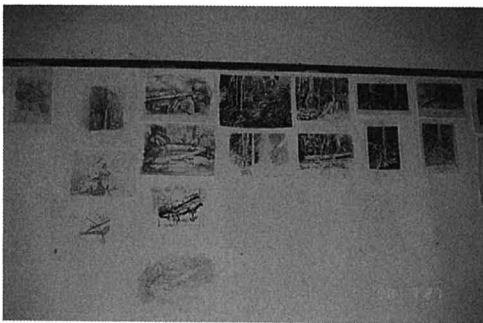


図18 絵画コース、水彩画



図19 絵画コース、油彩画

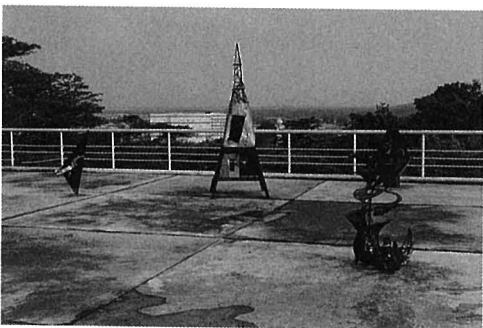


図20 美術コース、彫刻作品



図21 英特学院の外観



図22 英特学院 ホール

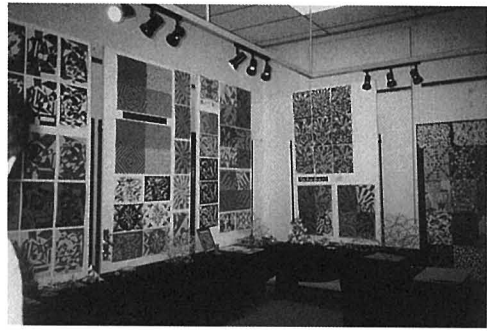


図23 英特学院 グラフィック作品

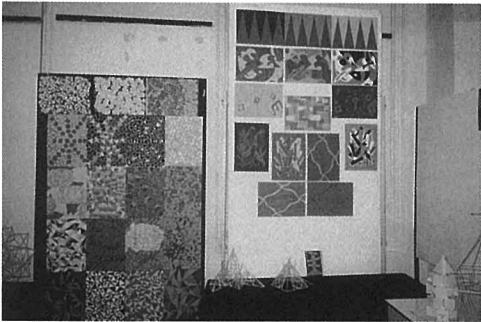


図24 英特学院グラフィック作品

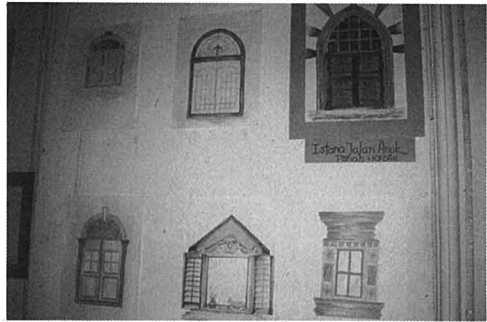


図25 英特学院 デザイン作品



図26 赤道芸術専科学院の外観



図27 赤道芸術専科学院
コンピュータ室



図28 赤道芸術専科学院
コンピュータ室



図29 赤道芸術専科学院
映像制作を説明する講師



図30 コンピュータ室とその作品

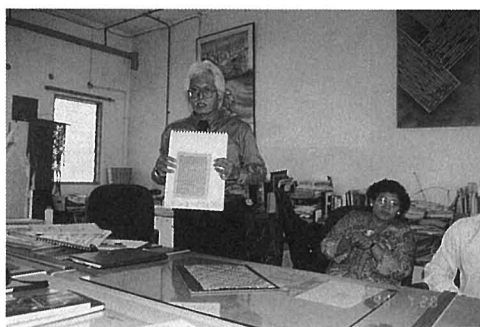


図31 MPIKのスタッフによる説明



図32 MPIKの学生作品



図33 MPIKの学生作品



図34 MPIKの学生作品



図35 MPIKの学生作品



図36 MPIKの学生作品



図37 セント・ガブリエル初等学校校庭



図38 セント・ガブリエル初等学校生徒作品



図39 セント・ガブリエル初等学校生徒による壁画

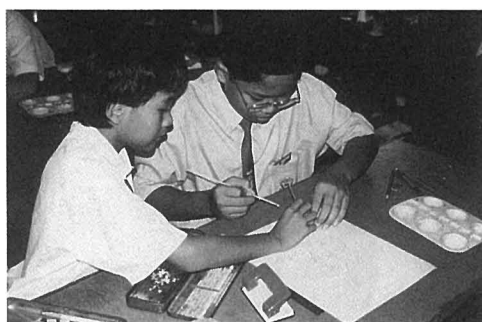


図40 セント・ガブリエル初等学校 コラージュの授業風景

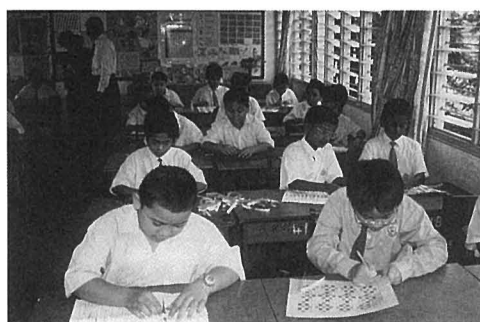


図41 セント・ガブリエル初等学校 アニヤマンの授業風景

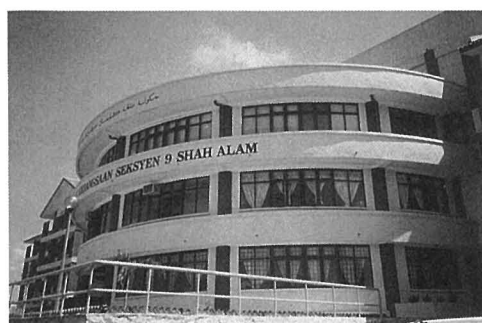


図42 シャー・アラム第9中等学校の外観

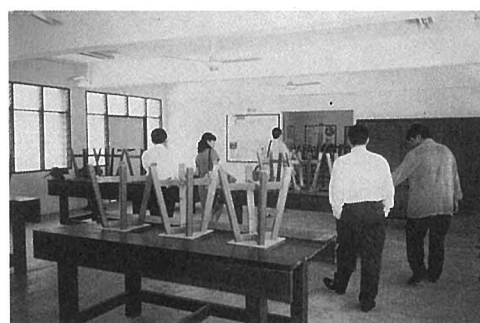


図43 シャー・アラム第9中等学校工作室



図44 シャー・アラム第9中等学校 家庭科室



図45 シャー・アラム第9中等学校 「芸術週間」の展示室

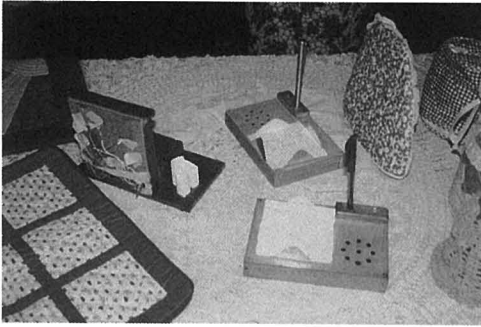


図46 シャー・アラム第9 中等学校
生徒作品



図47 チュラス中等学校の外観



図48 チュラス中等学校
バティックの授業風景



図49 チュラス中等学校
絞り染めの授業風景



図50 チュラス中等学校
アニャマンの授業風景



図51 チュラス中等学校
ストロー細工の授業風景